

16. 市販の黄色粘着トラップによるキスジノミハムシ誘殺数の比較

1. 背景とねらい

ダイコン産地ではキスジノミハムシ（図 1）の被害が多発して問題となっています。キスジノミハムシ成虫の発生を把握するためには、トラップによる調査が有効です。また、キスジノミハムシ成虫を誘引する色は黄色や白色など明るい色であることが明らかとなっています。そこで、市販の黄色粘着トラップへのキスジノミハムシ成虫の誘殺数を比較し、誘殺数の多いトラップを検討しました。

2. 成果の内容

- 1) 市販の黄色粘着トラップの虫とり君®（淡黄色）、New 虫バンバン®（蛍光付加淡黄色）、ホリバー®イエロー（黄色）を供試しました（図 2）。
- 2) 虫とり君®と New 虫バンバン®は、ホリバー®イエローに比べ、色の明るさ（L*）と黄色の鮮かさ（b*）が小さい（表 1）。
- 3) 虫とり君®, New 虫バンバン®, ホリバー®イエローは大きさを 13cm×10cm にそろえ、虫とり君®は白色の紙に両面テープで固定しました。それらをグラスファイバーの棒に固定し、コマツナにキスジノミハムシを多発させた圃場（株当たり平均 4.0 頭）に、トラップの底辺が地上から 3cm の高さになるように設置します（3 反復）。調査は 8 日間行い、24 時間毎にトラップを移動させ、色彩トラップに誘引されるキスジノミハムシ成虫数を見取り調査しました。
- 4) 虫とり君®と New 虫バンバン®は、ホリバー®イエローよりもキスジノミハムシ成虫誘殺数は 2 倍以上多くなります（表 2）。
- 5) 以上のことから、キスジノミハムシの発生推移等の調査に有効な黄色粘着トラップは、虫とり君®と New 虫バンバン®が有効と考えられます。

3. 利用上の留意点

- 1) 発生予察調査に使うためには、虫とり君®や New 虫バンバン®の圃場内の必要設置数および設置場所、トラップへの誘殺数と作物上での成虫の発生数との関係を明らかにする必要があります。

（生産環境研究部）

4. 具体的データ



図1 キスジノミハムシ成虫



図2 黄色粘着トラップ

表1 黄色粘着トラップの色差値

	L*	a*	b*
虫とり君 [®]	24.5±8.7	-3.7±1.2	18.2±6.4
New 虫バンバン [®]	25.4±5.1	-6.8±1.3	17.2±3.6
ホリバー [®] イエロー	32.9±6.5	-4.2±0.9	25.5±6.1

注) 1枚のトラップを7回測定した平均値±標準偏差

L* : 明るさ, a* : 緑~赤, b* : 青~黄

表2 黄色粘着トラップへのキスジノミハムシ成虫の誘殺数 (1トラップ当たり虫数)

	誘殺数	
虫とり君 [®]	25.3±5.5	a
New 虫バンバン [®]	24.7±8.1	a
ホリバー イエロー [®]	9.7±2.9	b

- 注) 1)設置は2012年9月11日~19日
 2)調査期間8日間,トラップの位置はそれぞれ,24時間毎に移動させ,ローテーションを行った(3反復)。平均値±標準偏差
 3)異なる英小文字はTukey検定5%水準で有意差あり